

# 農業振興と環境保全対策について

産業建設常任委員会

## 〔視察日程〕

平成28年

7月25～27日

## 〔視察研修先〕

北海道河東郡鹿追町  
環境保全センター  
北海道立総合研究機構畜産試験場  
十勝農業改良普及センター本所・西部支所

## 〔参加議員〕

菊池充  
多田勉  
照井文雄  
荒川栄悦  
細川幸男  
多田誠一  
〔同行職員〕  
農林畜産部畜産振興課長補佐 菊池稔彦



耕畜連携の取り組みについて説明を受ける

鹿追町環境保全センターは、単に牛のふん尿と生ゴミや下水汚泥を適正に処理するだけではなく、環境の改善・農業生産力の向上・地球温暖化の防止・循環型社会の形成・地域産業活性化の推進を担い、中鹿追地区に17億4千万円（町負担3億8千万円）をかけて整備され、平成19年10月に稼動した。さらに2基目を酪農の中心である瓜幕地区に約28億円（町負担14億円）をかけ、国内最大規模のバイオガスプラントを整備し、今年4月より稼動している。

- メリット① 市街地や観光客への悪臭や環境汚染防止による環境の改善。
- メリット② 処理された消化液や堆肥が、牧草地・飼料畑・畑作に還元することによる、農業生産力の向上。
- メリット③ バイオガスによる水素事業・精製利用・売電で、地球温暖化の防止にも寄与。
- メリット④ 家庭や公共施設等から排出される生ゴミ・汚泥の処理で有機堆肥から生産された農産物の供給による、循環型社会の形成。
- メリット⑤ 余剰熱利用によるハウス栽培品目の拡大や周年栽培の確立、チヨウザメ飼育等による新産業の創出で、地域産業が活性化。



今年4月から稼動した国内最大規模のバイオガスプラントの全景

新産業の創出は試みの段階ではあったが、それ以外は計画に近い取り組みがされていると感じた。  
鹿追町は人口5533人、総面積402.88km<sup>2</sup>の3割を占める農地面積から、農業生産額は186億円、酪農が51%、その他畜産が21%、畑作は28%となっており、酪農の環境対策無くして町は成り立たないとの思い

と、耕畜連携による持続的農業振興の更なる発展のために大規模プロジェクトとして果敢に取り組みされていることを、この施設を研修し実感した。当市においても豊富な有機質資源を活用し耕畜連携の推進を図るためにも、堆肥センターの拡充による完熟堆肥生産の増量及び供給体制の強化が求められていると感じた。

# 妖怪文化・伝統伝承文化等を通じたまちづくり及び子育て・住まい支援制度と若者定住・移住の取り組みについて

教育民生常任委員会

## 〔視察日程〕

平成28年

7月19～21日

## 〔視察研修先〕

鳥取県境港市  
鳥取県岩美町

## 〔参加議員〕

萩野幸弘  
菊池美也  
小林立栄  
菊池巳喜男  
小松大成



いたるところに妖怪を活用したまちづくりが面白い

2010年に開催された遠野物語発刊百周年イベントのオフラインイベント「かたるくん」の生みの親であり「ゲゲの鬼太郎」の作者としても有名な水木しげる先生の生誕地である鳥取県境港市を訪問し、妖怪を活用したまちづくりの実態を視察研修した。

若手職員の発案であったが、地元は当初奇抜すぎて否定的だったようである。しかし、市職員の粘り強い説得とメディアに取り上げられ観光客が多数訪れるようになったことで、地元商店街も積極的姿勢に変わったようだ。その後、水木しげる記念館もオープンしたが、こちらの施設は現在も行政が直営しており、中の売店には水木先生の書籍が数点販売されているのみである。これは地元商店街と販売品目が重複しないようにする配慮とのこと、官民一体となって水木しげるロードを盛り上げている姿勢に共感した。

い田舎の総合第1位に選ばれた町である。豊かな自然環境や移住支援体制の充実もさることながら、実際に移住を果たした若い世帯が

新たな移住者を呼び込んでおり、口コミ効果が非常に高いと感じた。また、移住支援だけでなく定住対策として仕事の確保、子育て支援や教育環境の整備、老後のケア等、総合的かつ継続したサポート体制も整備されている。本市も今後の市政発展に向け、若い世代の移住に積極的に取り組む必要があると感じた。

境港駅から本町アーケードまでの800メートルに及ぶ水木しげるロードには、随所に水木先生が描く妖怪等をモチーフにしたブロンズ像が多数展示されている。妖怪像の設置は行政の

この町は田舎暮らしに関する月刊誌で住みた



岩美町担当職員の説明後、自由討議の時間に入り、活発に意見を交わす